

talk! talk! talk! 女優・小川範子さん



女優

小川範子さん

今秋にデビュー15周年を迎える小川範子さんは、知る人ぞ知るニコンユーザー。劇のパンフレットやアルバムジャケットのセルフポートレート写真を撮影する一方、2001年にはチャリティ写真展「かめかめら展」にも出展。
「大事なカメラで興味のあるものだけを撮る」とひとつひとつの撮影を大切にされている小川さんに、撮影のときのエピソード、その楽しみなどを聞いた。

プロフィール

おがわ・のりこ。1973年東京都生まれ。1986年TVドラマ「愛の嵐」（フジテレビ系）のひかる役で注目を浴び、1987年「涙をたばねて」（トラスレコード）でCDデビュー。舞台でもひとり芝居「不真面目な十七歳」、ミュージカル「シェルプールの雨傘」などに出演。写真撮影が趣味で愛機はニコンF。現在はTVドラマ「はぐれ刑事純情派」（テレビ朝日系）にレギュラー出演中。2002年6月30日まで東宝芸術座（東京・有楽町）において舞台「タヤげ小やげでまだ日は暮れぬ」に出演。

愛用カメラはニコン 「撮りはじめは見よう見真似です」

Fといえば、はじめて発売されたのは1959年、現在は生産されていないFシリーズ初代の一眼レフ・マニュアルカメラです。どんないきさつでFを使われるようになったのですか？

マニュアルカメラに興味を持ちはじめたのは、5年くらい前なんです。それまではコンパクトカメラを使っていたんですが、ちょっと物足りなさを感じはじめたんですね。今のコンパクトカメラは、シャッターを押すだけで誰でもきれいな写真が撮れちゃうじゃないですか。そこで、偉そうな言い分かもしれないんですが、自分の意図を反映させたりするには、マニュアルカメラがいちばんかなと思ったんです。

でも、レンズから何から揃えていこうとすると、ものすごく高くなってしまいうことに気がきまして（笑）。もしそれで使いこなせなかったら、宝の持ち腐れになっちゃいますよね。そこで、仕事柄カメラマンの方と接する機会が多いので、知り合いのカメラマンに相談してみたんです。そうしたら、その方がお持ちのニコンFを「よかったです使ってください」と譲ってくださったんです。

レンズは何を使っていらっしゃるんですか？

カメラといっしょに、標準レンズを1本いただいたんです。今でもほとんどそれしか使っていないですよ（笑）。

すると小川さんの写真は、単焦点の標準レンズだけで撮っているんですね。マニュアルカメラの使い方は、どうやって勉強されたんですか？

最初はいきあたりばったりでした（笑）。どちらかというと、ちゃんと本を読んで勉強してからトライするほうではないので、見よう見真似です。今は露出計も使っていますが、最初は持っていないままでした。あとは、周囲にたくさんいらっしゃるカメラマンの方に、いろいろお聞きして覚えました。

最初にFから使いはじめるというのはすごいですよね。

「大胆だ」と言われました。知らないがゆえにできた選択だと（笑）。

Fはマニュアルで撮影する楽しみが十分満喫できますよね。

被写体にピントをあわせて、ぴっと合うときって気持ちがいいですよね。

オートは確かにきれいな写真が撮れます。でも、「これは私がうまいんじゃなくて機械がうまいんだ。機械に操作されてどうするんだ」などと思ってしまって。マニュアルカメラには、失敗する楽しみもあると思います（笑）。



たまたま撮れた写真も楽しい モノクロ写真に感じる新鮮さ

最初のうちは、露出などの失敗から思わぬ写真が撮れてしまったりしませんか？

そうですね……。失敗ももちろんありますが、なかには「よく撮れた！」と思える作品が偶然撮れることもありますね（笑）。

私はモノクロしか撮らないのですが、焼きつけ方とかで微妙にうまい雰囲気の写真になったりすることもあります。ごまかしてしまうというか。

モノクロ写真だけというのはこだわりですか？

子どものころからテレビも写真もカラーなのが当たり前だったので、逆にモノクロが新鮮に感じて、とても好きなんです。

あとは、お店でフィルムを探したときに、モノクロフィルムって安かったんですね（笑）。現像とかプリントとかすると高くなっちゃうので結局は同じなんです、きっかけはそういう単純なところからです。

価格が安いというところから始まって（笑）。

そう、そうなんです（笑）。カラーはあまり挑戦しようと思わないんです。私にとってFはモノクロ専用ですね。



小川範子さんのセルフポートレート。手に持っているのは？
「お気に入りのカフェオレポウルなんです。フレンチポップだけを歌うライブがあって、そのチラシのために撮りました。

背景にはブランケットを壁に張り付けて撮っています。大きな瞳が印象的！
「目もとだけなので、ぱっと見たら私だって分かりませんよね。それも面白いなと思って撮りました」

レフ板は白いTシャツ、ライトはスタンド！ 「偶然できた構図を、味と言いきります（笑）」

セルフポートレートを、撮りはじめたきっかけは何ですか？

お気に入りの舞台衣装を写真に残しておきたい、というのがきっかけでした。舞台のお仕事で、1940年代くらいのアメリカのアンティーク（古着）を着たことがあって、とっても気に入っていたんです。でも、もちろん舞台が終わったらお返ししなきゃいけないからね。だから記念に、舞台衣装を着た写真を撮ったんです。

撮った写真はどんなふうに使っていらっしゃるんですか？

ひとり芝居をこれまでに何度かやっているんですが、そのパンフレットや、ビデオのパッケージなどにも使っています。ライブのチラシやパンフレットも自分で写真を撮っています。

どんな作品が気に入っていますか？

うーん。ほとんど趣味でやっていることなので、いつも「これはいい！」ってひとりで喜んでます（笑）。いちばん最初にセルフポートレート写真を使ったのが、このひとり芝居のチラシです。自宅で撮ったんですが、レフ板の代わりに白いTシャツを床にひいて、スタンドをライトにして撮影しました。セルフポートレートなので、撮るときにファインダーを覗けないじゃないですか。だからこう顔が切れちゃったんですね。でも、これが味だと言いきって（笑）。

ピントはどうあわせたんですか？

壁に文字を書いた紙を貼ってピントをあわせる目安にしたり、大きめのぬいぐるみを自分の代わりに置いたりします。シャッターはタイマーで落ちるようにして……。ひとりでいるいるドタバタと撮っています（笑）。



1998年におこなわれた小川範子さんのひとり芝居『不真面目な十七歳』のチラシ。小川さんは、初めての恋でエイズウィルスに感染した17歳の少女の役を熟演。よい台本とめぐりあえたら、またひとり芝居を続けていきたいそう。

作品作りを楽しむ小川範子さん ジャケット写真の主役はワンピース

2001年10月に発売された小川さんのアルバム『ホオズキ』のジャケット写真も、セルフポートレートですよ。この写真のモチーフを教えてください。

『ホオズキ』は、シュールでセクシーな感じの世界観をもった作品なんです。コンセプトとしては日本的な情緒感を中心におき、サウンド的にはフレンチっぽい要素を取り入れています。日本とフレンチのミックスという点から、どんなジャケット写真にしようかなと考えたんです。

そこで、自分の持っている服のなかに、日本の着物のような花柄が入ったフランス製ワンピースがあったので、それを着たいと思ったんです。写真ではあまりよく見えないので、説明しないと分からないんですが（笑）。だからこれは、ワンピースが主役の写真なんです。背景も、そのワンピースに馴染む場所を選びました。どこにでもあるような普通の雑木林なんです。

写真を撮る場所はどう選ぶんですか？

あまり「こういう場所を探そう！」と肩に力を入れると見つからないので、ふだん、散歩したり車で移動しているときに、気になったところを見つけておきます。そのアルバムジャケットの林もそうなんです。



小川範子さんがアーティスト名を「OGAWA」として発表したアルバム『ホオズキ』

Fは自由になる時間にゆっくり撮るカメラ 「デジタルカメラはスナップ感覚で使っています」

ふだんは、どういうときにFを使って写真を撮るんですか？

ニコンFでけっこうボディが大きいし重いですよ。それに大事なものなので、なくしちゃったりするのが恐くて、いつもは家においてあります。

私は、興味を持ったものじゃないとシャッターを押さないんです。だから意外に、Fで撮る対象物の範囲は広くないんですよ。だから、ふだんは家にしまっておいて、「今日は使うぞ！」という日だけ持っていくんです。撮るものは、チラシなどに使うための自分の写真や、飼っている犬などですね。

犬ですか。動くものを撮るのって難しいですよ。

難しいですよ。でも動物は、動きの予想がつかないから面白いですよ。瞬間瞬間を狙うじゃないですか。追いかけていくとヘトヘトになります（笑）。ふだんはどちらかというとデジタルカメラのほうが多いですね。Fよりも、もっと気軽にちよこちよこ使っています。主に、ファンクラブのホームページに載せるために撮っています。

モノクロ写真をFで撮る楽しさは、どんなことにありますか？

撮るときの楽しさと、よく撮れたなーと思う楽しみだけです（笑）。趣味としては、時間や場所、もちろん年齢も関係なく、長く楽しめることも好きです。

それに、なんていうんでしょう、1回1回、きちんと結果が出るじゃないですか。撮影して現像して、撮れているか撮れていないかとか。うまく撮れていたらうれしいですし、それが面白いところ。あと私の場合は、趣味で撮った写真を、こうやってチラシなど使って発表できるので、それも楽しいですね。



「ファインダーをのぞいてください」とお願いしたら、かわいいポーズで答えてくれた小川さん。小川さんのニコンFはブラックボディで、Fのなかでは比較的製造年が新しいもの。

6月末まで舞台に出演中 「音楽活動もコツコツやっていきたいです」

目下力を入れて取り組んでいらっしゃるの、5月、6月の舞台のお稽古ですか？

はい、芸術座で出演しています。京マチ子さん主演の「夕やけ小やけでまだ日は暮れぬ」というコメディタッチの舞台です。

京マチ子さんの娘役・佐和子さんとして出演されるんですね。

はい。佐和子は長女なんですけど、ほかに兄と弟がいて、お兄さんやお嫁さんやがお母さんの遺産を「ちょうだいちょうだい！」とおねだりするんです。私（佐和子）もちゃっかりもので、好きなことをやって、お嫁にもいかず、お母さんのそばにいるという設定で、まあ周囲のことにおせっかいをやきつつ、言いたい放題言って、お母さんにおこづかいをせびるような娘の役です（笑）。

京さんを軸に、人生経験豊富な女性たちがパワフルな舞台を作ります。私も、ばたばたした場面でもしっかりした役を演ずるのははじめてなので、新鮮な気持ちで取り組んでいます」



アンティークカメラのニコンF。メンテナンスは？「使ったあとに自分で簡単に掃除するくらいです。何度か落としてボディはへこんでしまいましたが、故障は今のところ一度もしていません」。ニコンF以外の一眼レフが使ってみたという気持ちは？「ぜんぜんないですね！今あるニコンFもまだ使いこなしていませんから（笑）」

興味のあるものを追いつけて写真を撮っていきたい

そんなお忙しい生活のなか、じっくりと取り組まれているのがニコンFでの撮影なんですね。写真という趣味は、自分のペースでゆっくりと楽しめるのもいいですね。

そうそう。ひとりのできるしね、人から見たらちょっと暗いようにみえますけれども（笑）。自分の思いが写真に反映されるとうれしいんですが、でも逆に、意図通りに写真が撮れてくると、だんだん、ちゃんと撮れているけれども、なんだか私にとって面白みのない写真になってしまうんですね（笑）。それがひとつのカベだと思えます。

これから写真を撮っていくうえで、テーマはありますか？

やっぱりモノクロが好きなので、もうちょっと撮り続けていきたいですね。技術面でももっとうまくなりたいと思いますが、セルフポートレートに関していうと、自分が変わるにつれて写真も変わっていくので、それを撮っていきたくと思います。こういうお仕事をしているからかもしれませんが、自分にすごく興味があるんです。

自分を追いつけるわけですね。

あとは自分に関わらず、どういふものにも興味をもっていくかということで、カメラが向く方向が変わっていくと思います。日々、自分自身が何に興味をもつかは変わっていくわけですから、それは、カメラが向く方向にあらわれると思います。方向性が広がっていくことばかりがいいとは思わないですけども、セルフポートレートだけじゃなくて、これから先も、興味のままに撮っていきたくです。

ますますのご活躍、楽しみにしています。



今後、音楽活動にはどう取り組まれる予定ですか？

歌はすごく好きなんです。役者としては、作品や役との出会いがあって、役柄を通していろんなことを表現するんですが、歌の場合は、ダイレクトに自分自身を伝えられるので……。だいたい今は、年にアルバム1枚、ライブ1回というペースでやっています

次のご予定は？

秋にまたアルバムを出します。サウンドプロデュースは、前作からの引き継ぎでヲノサトルさんをお願いします。今度のアルバムは、馴染み深い西洋のクラシックをベースに、現代音楽ふうのアレンジメントをして、オリジナルの日本語の歌詞を載せて歌う予定です。

女優として、歌手として、大忙しですね。

役者として演じることを主軸にして、歌のほうは、そのなかで定期的にコツコツやれたらいいなと思います。演じる部分に関しては、映像も舞台も両方やれる機会があるのは、幸せなことですから。

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.